

第65回日本小児神経学会学術集会の開催報告

The 65th Annual Meeting of the Japanese Society of Child Neurology

会長 小林 勝弘 (岡山大学学術研究院医歯薬学域 発達神経病態学)

Katsuhiro Kobayashi (Department of Pediatrics (Child Neurology), Faculty of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama University)

この度、第65回日本小児神経学会学術集会を2023年5月25～27日の3日間にわたり、岡山コンベンションセンターと岡山県医師会館において開催させていただきました(図1, 2)。日本小児神経学会は新生児～小児期のさまざまな神経疾患の病態解明と治療法開発を通して、子どもの健やかな発達を育むことを目的としています。創立は1961年で、このとき以来ほぼ毎年全国学会を開催し、子どもの神経疾患に関わる科学的情報の発表・議論や診療上の意見交換を行い、日本のみならず世界の小児神経学の発展に貢献してきました。そして2023年には岡山大学が主催するように指名されたものです。私共の教室が主催するのは、初代教授故 大田原俊輔先生の教授就任前の1976年第18回集会時と、第二代教授故 岡 鋈次先生の2001年第43回集会時に次いで、3回目となります。

幼い子どもの神経疾患の病状や原因は成人期とは大きく異なり、子どもが体の小さなおとなではないことを如実に表しております。小児神経疾患に対しては脳



図2 会長挨拶

神経内科学とは全く異なった対策が必要です。この小児神経学の一層の発展のためには、最先端の神経科学と先人から脈々と蓄積してきた深い臨床経験に基づく洞察を有機的に融合し共に高めて行く必要があると考えました。そこで今回の学会は「先端研究と臨床的洞

察の融合に向けて」をテーマとしました。分子遺伝学、先天代謝学、神経生理学、神経画像など広範囲の知見を結集して、このような子ども達の病状の解決を目指すことを企図し、Yukio Fukuyama Memorial Lectureをはじめとする8の特別講演・招待講演、19のオンデマンド専用を含む教育講演、29のシンポジウム、10の委員会主催セミナー、11のプレコンgress実践教育セミナー、そして市民公開講座を擁しました。この度の学術集会において上記のような高邁な目標を幾ばくかは達成できたと考えております。

本学術集会における最も重要な講演である Yukio Fukuyama Memorial Lecture は学会創設者の1人で福山型先天性筋ジストロフィーに名を遺す故 福山幸夫教授に因むものであり、今回はイタリア、フィレンツェ University of Florence and Meyer Children's Hospital の Renzo Guerrini 教授に“The developmental and epileptic encephalopathies: from genetic heterogeneity to phenotypic continuum”と題して、子どもの発達を阻害する重要な病態である発達性てんかん性脳症 (developmental and epileptic encephalopathy) について、特に遺伝学に関わる最先端の知見をお話いただきました。カナダ、トロント The Hospital for Sick Children, University of Toronto の Ingrid Tein 教授には“Early onset vitamin- and cofactor-responsive encephalopathies and seizures”として治療可能な早期発症代謝異常症についてお伺いする機会を得ました。



図1 学術集会ポスター

アメリカ, シアトル, Seattle Children's Research Institute and Department of Pediatrics, University of Washington School of Medicine の Kathleen J. Millen 教授からは“Genetic and histological analyses reveal new insights into the causes of human cerebellar developmental abnormalities”の講演で小脳発達の異常について, シンガポール SingHealth の Derrick Chan 先生からは“Genetics and inflammation in childhood epilepsy”について, アメリカ, ヒューストン Baylor College of Medicine の Eyal Muscal 教授からは“Biologics in neuroinflammation: are we ready for precision medicine?”について, それぞれ各専門分野の知見を分かり易くお話いただきました。

特別講演には碩学が並び, カナダ, トロント小児病院の大坪 宏教授には「次世代の小児てんかん・脳波・小児てんかん外科」として小児てんかん医療の未来展望の話をしていただき, 浜松医科大学子どものこころの発達研究センターの千住 淳教授には「社会的認知の発達と可塑性・多様性」として認知機能の発達とその障害に関わる話を賜りました。そして神経学と遺伝学に関わる第一人者である本学脳神経内科学分野の石浦浩之教授には「遺伝性神経筋疾患の最近の進歩」と題してまさしく最先端の遺伝学的情報を披歴していただきました。

一般の方々への啓発も重要ですので, 市民公開講座では「デジタルネイティブ世代の子育てー親子が衝突しないためにー」というタイトルで, 社会的問題にもなっている子ども達のネット中毒・ゲーム障害・スマホ依存という課題について, 岡山県の担当者や専門家の岡山県精神科医療センターの古田大地先生にお話いただき, そして久里浜医療センター 樋口 進名誉院長・顧問のご講演を伺いました。子育て中の方々や教育関係の方々に, 子どものネット中毒にどのように対応すればよいか途方に暮れている方も多いかと思います。そのような方には光明になる市民公開講座であったかと思考します(図3)。

2020年初頭に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が出現して以来日常の様々なものの在り方が変わり, これが5類感染症に分類されるようになったばかりの現在においても事態は流動的です。これに応じて学術集会の在り方もオンラインやオンデマンドなど, 多様性を増しております。そこでこの度は感染対策を十分に講じた上での現地開催を主体としたハイブリッ

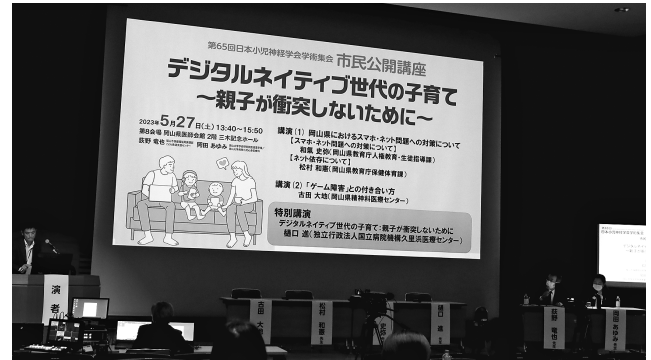


図3 市民公開講座

ド開催にいたしました。教室員一同で小児神経学の未来を共に考え高めていくための有意義な学会となるように鋭意準備を進めました。その結果, 全国の小児神経科医をはじめとし, 非会員, 看護師など多職種, 医学部学生を含む2,800人余りの方々に参加していただきました。その中の現地参加は1,700人弱でしたが, リニューアルオープンしたばかりの岡山城を含めた5月の岡山の風物や食事を堪能していただけたものと思います。

末筆になりますが, 本学術集会の開催にあたっては岡山大学医学系の皆様, 会員, 岡山大学医学部小児神経学教室同門会の先生方ならびに関係各位, そして教室員と秘書の方々に大変お世話になりましたことを心より感謝申し上げます(図4)。



図4 スタッフ集合写真

2023年5月29日受稿
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1
電話: 086-235-7372 Fax: 086-235-7377
E-mail: k_koba@md.okayama-u.ac.jp